

受入地活用の方角性

1 本資料について

本資料は、手稲山口地区内の北海道新幹線建設工事に伴う発生土受入地（以下、「受入地」）の活用について、市が実施した民間企業を対象としたヒアリング結果をもとに、手稲山口地域協議会（以下、「協議会」）での意見交換や手稲山口地区の住民等を対象とするアンケートを実施し、考え方や視点を取りまとめたものです。

2 手稲山口地区について

手稲山口地区は農業が盛んであり、畑と緑地が多くを占めます。地区内は国道337号が東西に貫き、山口処理場をはじめとする公共施設や学校、開拓時代の歴史を感じられる史跡が残されています。



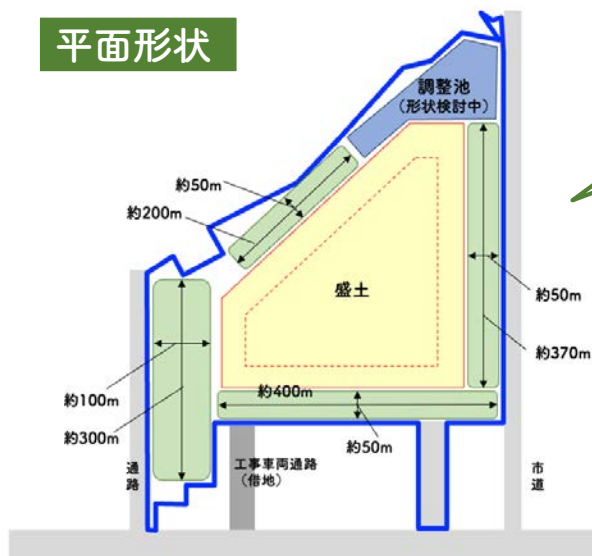
地区内及び周辺の主な施設

- ① 山口緑地
- ② 山口斎場
- ③ 手稲水再生プラザ
- ④ 山口処理場
- ⑤ 北海道札幌あすかぜ高等学校
- ⑥ 札幌市立手稲北小学校
- ⑦ 北海道星置養護学校 ほしみ高等学園
- ⑧ 手稲山口バッタ塚
- ⑨ 山口神社
- ⑩ 山口運河
- ⑪ パストラル星置
- ⑫ 小樽カントリー倶楽部
- ⑬ おたるドリームビーチ

3 受入地の基礎情報

受入地は国道337号の沿道北側に位置します。平面形状は盛土部と平坦部で構成され、盛土高さは16.5mとなる予定です。

平面形状



受入地の面積

全区域面積：約210,000㎡
盛土上部：約58,000㎡

断面形状



盛土部の施工上の制限

- ・遮水シートがあるため、杭が必要な建物は難しい
- ・1m程度の覆土を予定

4 検討経緯

協議会では、受入地における工事の安全性の確認とともに、地域課題の共有を図り、今後の地域づくり及び受入地活用に向けた意見交換を行っています。令和6年度には、札幌市が受入地の立地や活用方法等について民間企業へヒアリングを行った結果が示されました。

(1) 協議会で共有した地域資源・課題

令和6年度末までに12回の協議会を開催し、地域づくり等について意見交換を実施した際の意見等

【地域資源】

- ・農産物特産品（大浜みやこ・サッポロスイカ）
- ・夏場に立ち並ぶ直売所の賑わい
- ・郷土芸能「風雪太鼓」
- ・豊かな自然環境・ロケーション

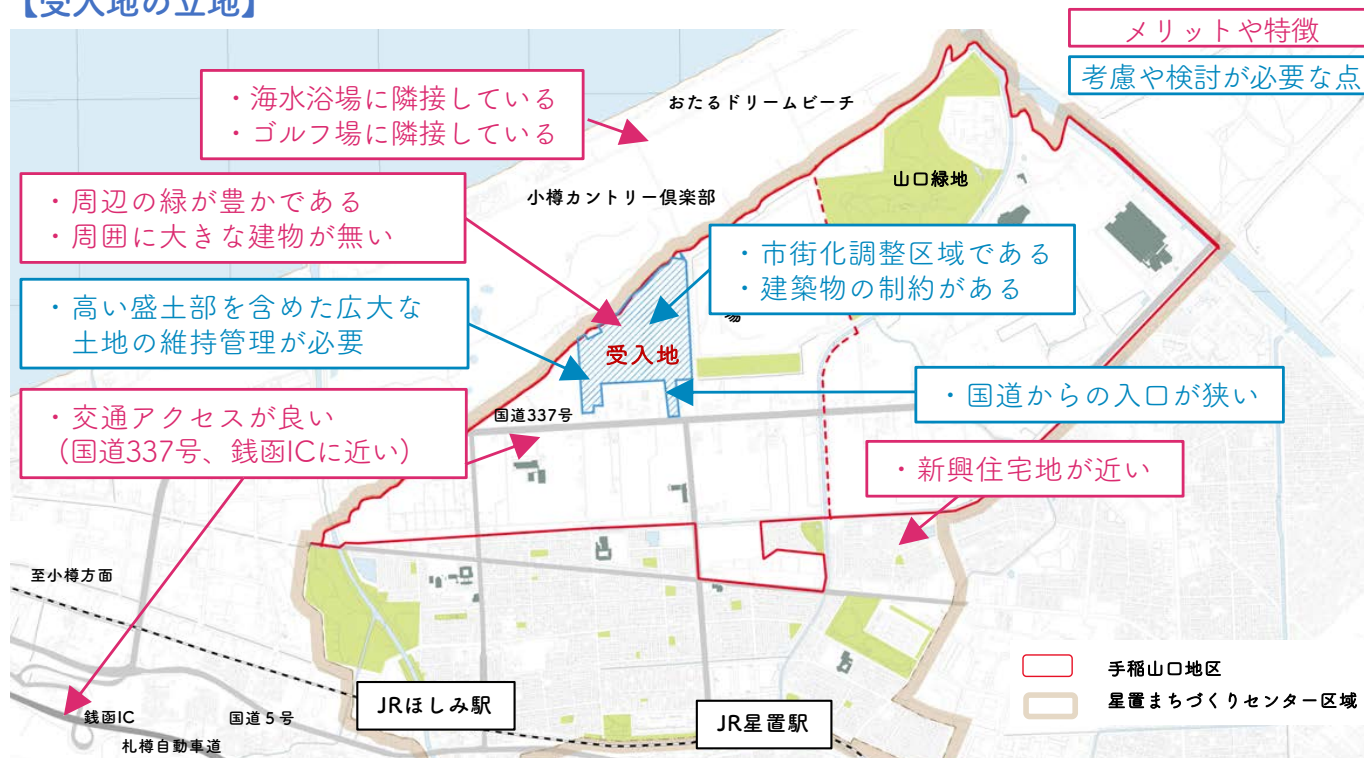
【課題】

- ・農家の高齢化・担い手不足
- ・耕作放棄地の増加
- ・処理場等、マイナスイメージの施設が多い
- ・制限がある中での土地の活用と活性化

(2) 民間企業ヒアリング結果

不動産開発・観光・スポーツ・レジャー等の事業を手がける民間企業を対象に市がヒアリングを実施

【受入地の立地】



【活用方法の例】

【検討課題等】



多様なスポーツ・レクリエーションを楽しむ場

農産物直売所
マルシェ



犬ぞりやクロスカントリー
ゴムチューブ滑りなど冬の遊び場



キッチンカー



キャンピング
カーサイト

- ・施設の管理・運営体制の検討
- ・冬期の活用の有無、及び活用方法
- ・景観の維持
- ・騒音や交通渋滞等、周辺地域への配慮
- ・夜間も含めた治安の維持

5 受入地活用の視点

検討経緯と民間企業ヒアリングの結果を踏まえ、今後、受入地の活用を検討する際に大切にしたい視点を整理したうえで、協議会における意見交換と地域住民等へアンケートを実施しました。

(1) 各視点の活用例と課題

○期待すること ●課題

A 自然に囲まれた景色を楽しみ、休憩できる

山並みや海を望む場所で、四季折々の景色を楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごすことができる

活用例

- 植樹・植栽
- 芝生広場
- 駐車場

意見

- 植物の見所やSNS映えするスポットがあると、多くの人がこの場所を目指して集まる
- 受入地の環境に適応した植栽（特に盛土部分）

B 家族や仲間と集い、スポーツや遊びを楽しむ

広々とした場所で運動したり、子ども達が遊んだりして過ごすことができる

活用例

- 遊具広場
- スポーツ広場
- ドッグラン
- 冬の遊び場

意見

- 大型遊具等があると家族連れで賑わう
- 集客とニーズを考慮した冬期の活用の方向性

C 地域の魅力に触れる

手稲山口の特産品である農産物や歴史文化など、地域の魅力に触れることができる

活用例

- 農産物直売所
- イベント広場
- キッチンカーサイト

意見

- 農産物を販売、供給できれば、地域の活性化につながる
- 農産物直売所の設置・運営方法・冬期の運営の方向性

D 多くの人が訪れ、滞在できる

市内外から訪れた人々が滞在して、楽しい思い出をつくることができる

活用例

- キャンピングカーサイト
- キャンプ場

意見

- 海水浴場が近く、夏場の賑わいが生まれる
- 夜間の使用に伴い、騒音や地域の治安悪化の懸念がある
- キャンプ場の管理運営
- 敷地全体の活用の中での必要性

全体に共通する意見

- 良いイメージで地域を知ってもらえるような場所にしたい
- 受入地を中心に、周辺を含めたまちづくりを進めていきたい
- 外部から来る人だけでなく、地域の人に喜ばれる場所にしたい
- 広い駐車場の確保と交通渋滞への対応が課題
- 受入地の周囲に柵を設置する等、近隣住民の安全な暮らしを守ることへの配慮が必要



(2) 部会における意見

4つの視点と活用例について、部会において意見交換を実施

○期待すること ●課題

4つの視点について、部会の意見概要

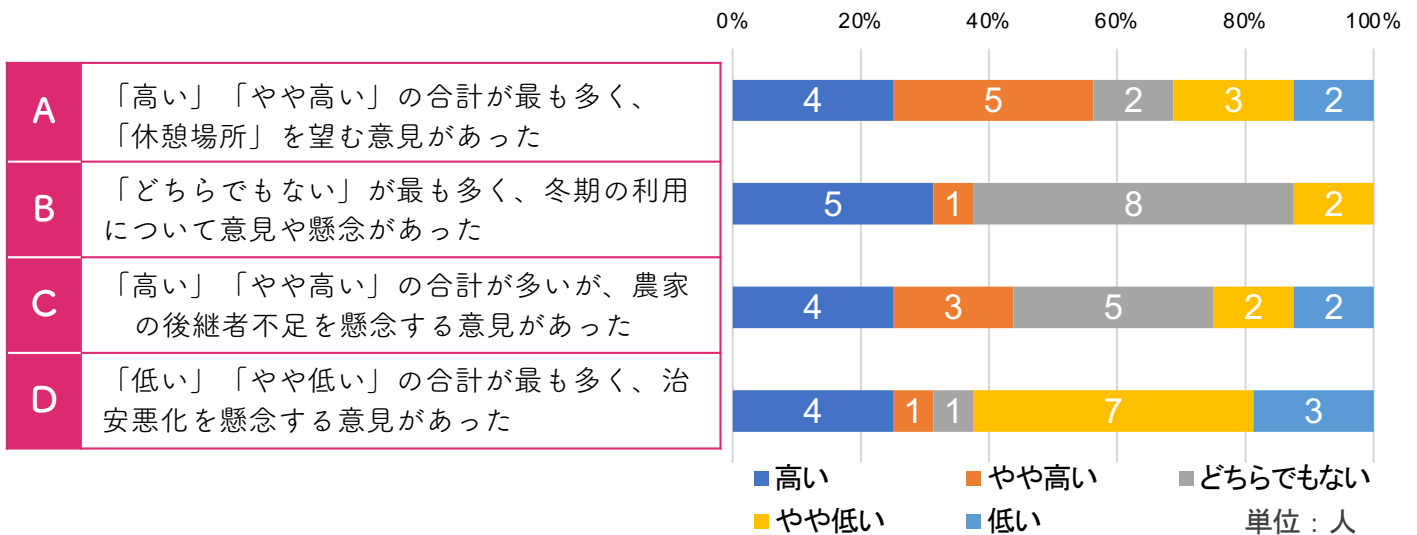
A	○植物の見どころは人が集まり地域の魅力となる ●類似する場所があるため、特色を持たせる必要がある
B	○サッカー場ができれば、中高生が練習や合宿で使えるので良い
C	●農家が直売所を必要としているか疑問。7月から9月は忙しく直売所まで手が回らない ●風雪太鼓は、夏場は出荷時期で忙しく断ることもあり、発表の場を増やすことや受入地を演奏の拠点とすることは現実的ではない
D	○アウトドア企業等の民間参入により活用ができると良い

(3) 地域アンケートの結果

方 法：手稲山口地区へ全戸配布、はがき・WEBにて回収(R7.1/9-1/30)

回収数：16（山口西:7, 山口東:7, 不明2） 配布数：110（地区内事業所等を含む）

4つの視点について、重要度とその理由



6 受入地活用の基本的な方向性

以上の検討結果をふまえ、受入地活用に向けた基本的な方向性を設定しました。
以下の3つの方向性を大切に検討を進めます。

① 自然に囲まれた景色の中で、地域の魅力に触れることができる

② 多くの人々が訪れ、心地よい時間を過ごすことができる

③ 地域の暮らしを守りながら、地域特性を生かした賑わいを創出することができる

7 今後の取組に向けて

協議会では、受入地活用の基本的な方向性を踏まえ、活用の具体化に向けた協議を進めていきます。

令和7年6月 手稲山口地域協議会